



茹でガエル現象から抜け出すのは難しい！！

ビジネスに携わっている人であれば「茹でガエル現象」のことはご存じだと思う。カエルを熱湯に入れると当然のごとくびっくりしてすぐに飛び出してしまふ。しかし、カエルを水に入れて段々と温度を上げていくと、カエルは温度の変化に気づかず、やがて気づいた時には茹で上がって死んでしまうという話である。

個人の生活でも、ビジネスの現場でも、ずっとぬるま湯の中に浸っているといつの間にか致命的な状態に陥ってしまうということを「茹でガエル現象」という比喩的な話にしているのである。

私は経営コンサルタントという職業柄、数多くの企業様にご縁をいただき、本当に沢山の経営者や役員の方々、管理者の方々にお会いさせていただくが、この「茹でガエル現象」に陥っている企業や経営者、役員、管理者の方々が如何に多いかということに改めて危機感を感じている。

「わが社はずっとこのやり方でやってきたし、これで儲けてきたから大丈夫だよ！！」

「うちは業界ではNo. 1の〇〇と長年お付き合いがあるし、太いパイプを築いているから問題ないよ！！」

「今のままでそこそこやれているから、特に何か変えていかなければということはないよ！！」

「この製品はうちの儲け頭やし、今でもそこそこ利益は出ているので下手にいじくって売れなくなったら困るからモデルチェンジなどは考えていないよ！！」

「改善とかは〇〇部長に任せてやらせているので、特に何も問題ないよ！！」

等々とおっしゃっていた経営者や役員、管理者の方々の会社が、取引先の組織改革や業務改革で急激な取引の縮小を強いられたり、販売している商品が少しずつ時代の流れから取り残され、売上がじり貧になり、少しずつ会社としての活力を失って勢いのある後発の競合会社に簡単に抜き去られたり、業容縮小や廃業ということで転落していつている様を沢山見せつけられてきた。

決まりきった考え方・やり方・方法・仕組みに頼り切って「日々改善」の心を忘れてしまい、変化を避けてきた企業の多くが、会社組織の中に「制度疲労」を生じさせ始め、それが時間の経過と共に大きな落ち込みとなって体現されているのである。

まさに「茹でガエル現象」である。気づいた時には、新しい変化に対応する「術」も「能力」も失われてしまっており、すぐに立ち直るための手立てを講じていくのは難しい状況になっていることが多い。

この「茹でガエル現象」から抜け出すことは非常に難しい。それは会社の中の組織や仕組みやシステムの改革などの抜本的な取り組みになるからである。そこにメスを入れる勇気が経営者や役員、管理者の方々に求められてくる。

